

特別支援学級生活単元学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなる学級）4人
知的障害特別支援学級（はばたき学級）6人
指導者 T1 木原 正晶 T2 小正 千華

1 単元名 ようこそ あすはばカレンダー屋さんへ

2 単元の目標

- 「あすはばカレンダー作り」に見通しをもち、制作活動やカレンダーを売ったり買ったりする活動に意欲的に取り組むことができる。
- カレンダーの絵や言葉、日付の数字をそれぞれの方法でかくことができる。また、お金のやり取りや、お礼の文を書くことができる。
- カレンダーを売ったり買ったりする活動を通して、相手を見たり、声の大きさに注意したりするなど一人一人に応じた買い物場面のやり取りを楽しむことができる。
- カレンダーを作る活動や、売ったり買ったりする活動を友達と協力して行うことができる。

3 単元について

(1) 単元の価値

本学級には10人の異学年の子どもが在籍している。日常生活において、上学年が下学年に積極的に手本を見せたり、下学年の子どもが、上学年の子どもを頼りにして活動したりと、子どもたち同士が関わり合ったり、助け合ったりする姿が見られる。子どもたちは、絵を描いたり、物を作ったりするなど制作活動に関することは、意欲的に取り組むことができるが、興味や関心が移りやすく、途中で活動を止めてしまったり、完成までに時間が掛かったりすることもある。また、人とのかかわりに関しては、周りの人とあいさつをしたり、言葉を交わしたりすることはできるが、自分の考えや気持ちを相手に分かるように伝えることや、相手に注意を向けて最後まで話を聞くことが難しいこともある。さらに、買い物に関しては、あすなる学級の子どもたちは、保護者と一緒に買い物に行った経験があるので、買い物に対するイメージはもっている。はばたき学級の子どもたちは、おつかいで一人で買い物に行く経験はあるが、買いたいものを店員に差し出すなど言葉のやり取りはあまりない。

そこで、本単元では、毎年「フェスタ山下」（PTAバザー）で販売しているカレンダーを作る活動を通して、計画を立て、見通しをもって、月ごとのカレンダーの絵を自由に表現する楽しさを味わい、学習に意欲的に取り組むことができるようにする。そして、お店屋さんごっこの学習の中では、客とお店の人とのやり取りをする活動を通して、「あいさつ」、「質問への返事」、「相手をしっかり見る」ことや、お金の扱い方を学習できるようにする。また、これらの活動を通して、友達と一緒に協力して活動することの楽しさを味わうことができるようにする。

指導に当たっては、単元の導入で昨年の学習の様子を写真やVTRで振り返り、カレンダー作りや販売の計画を立てることで、「フェスタ山下」に参加することへの見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。作成した学習の計画は、単元マップやカレンダーなどで確認できるようにしておく。また、カレンダーの制作については、行事の写真や季節の絵本を準備することで、それらを参考にしたり、イメージを膨らませたりしながら絵や文をかいていくことができるようにする。なお、子どもの実態に応じて、日付を書く際には、数を照らし合わせるための数字カードを準備し、順序良く書いていくことができるようにする。判子を押したり、ひもを結んだりするなど根気のいる作業には、制作した数が視覚的に分かるようなポイント制にするなど楽しみながらカレンダー作りに取り組むことができるようにする。

お店屋さんの準備に関しては、実際のお店の看板やポスターを参考にしたり、これまでの買い物経験で知っていることを想起したりすることで作りたいもののイメージをもつことができるようにする。そして、完成したカレンダーを全教室へプレゼントする際のやり取りの中で、もらった人から「ありがとう。」「素敵なカレンダーができたね。」など称賛されることによって、達成感を味わうことができるようにする。また、「フェスタ山下」での販売について知らせる学習を通

して、いつ、どこで、いくらかなどの大切なことを伝える必要性を感じることができるようにする。さらに、地域の方にもカレンダーをプレゼントすることで、人とのかかわりをより多く経験することができるようにする。カレンダーを売る練習をするときには、お店ではどんな言葉を掛けられたかを尋ねたり、教師同士が実際にやって見せたりすることで、売るときに必要なことを確認することができるようにする。また、お金のやり取りに関しては、高学年の子どもを中心とし、これまでの学習を生かして合計金額やおつりを求めることができるようにする。計算方法については、子どもの実態に応じて、筆算で求めたり、計算機を使って求めたりすることができるようにする。買う練習をするときには、買い物場面の写真を提示することで、お金の払い方や品物の渡し方が分かり、買い物のマナーを身に付けることができるようにする。さらに、友達同士で、買い物客と店員に分かれ繰り返し練習することで、人とのやり取りやお金の大切さが分かり、協力して活動する楽しさを味わうことができるようにする。その後、これまでの経験を生かし、あすなる・はばたき学級のみんで「フェスタ山下」で楽しく販売することができるようにする。そして、買ってくれた人やカレンダー作りに協力してくれた人に手紙を書くことで、感謝の気持ちを伝えることができるようにする。

この単元を通して、子どもたちは、自分たちで分担し、協力しながらカレンダーを作り上げ、それをみんなに販売することができたという達成感や満足感を味わうことができると考える。また、コミュニケーションのスキルを身に付け、たくさんの人と関わり合うことができたという成功体験により、他者とのコミュニケーションに対する自信を深め、人と関わり合いたい、話したいという気持ちを育むことができると考える。

(2) 子どもの実態

学級名	児童名	コミュニケーション	教科等に関すること	買い物に関する生活経験
あすなる学級	A児 (二年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 「見るカード」「聞くカード」の提示で、話し手を見て聞こうとする態度は身に付いてきている。文字や絵カードを提示すると、最後まで聞くことができることが多い。 自分の伝えたいことや興味のあることを何度も繰り返し話したり、伝えたりしようとすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物や動物、具体的な物の絵を描くことは少ない。矢印、線、円などをたくさん重ねたりして描くことがある。 千、万などの数を書いたり、読んだりすることができる。 教科書の物語や詩の一部分に興味を示すと、何度も口に出して読むことができる。 1週間の学習の予定とカレンダーを見て、取り組む学習内容に見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 母親が勤めているコンビニエンスストアで、母親や買い物客の様子を眺めていることがある。また、母親のまねをして店員の使う言葉をつぶやいていることがある。混雑している店には入りたがらないこともある。
	B児 (三年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 「見るカード」「聞くカード」の提示で、話し手を見て聞こうとする態度、話を静かに最後まで聞くことを学習中である。 自分から考えや思いを伝えようとするのは少ないが、質問されたことに対しては、単語で答えたり、「はい。」「いいえ。」の言葉やうなずきで答えたりすることはある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が描きたいものを想像して一気に描いている。集中力が続かず、途中で終わってしまうことがある。 100までの数を読むことはできるが順序が曖昧である。 教師の言葉掛けがあれば、ゆっくり丁寧に文字を書くことができる。 「月、火、水、木、金」と順番に唱えることで今日の曜日を把握することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 週末や学校帰りに父親と二人で買い物をする経験は多い。欲しいものを父親に買ってもらっている。しかし、買ってもらえないときに、怒ってしまうこともある。 去年のバザーでは、積極的に声を出したり、販売したりする意識をもつことが難しく、販売する場所にいることをめあてに取り組んだ。
	C児 (四年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 話し手を見て聞くことはできるが、疑問に思ったこと、自分が知っていることなどをすぐに話そうとしてしまうので、「最後まできちんと話を聞く」など、聞くとときの約束を守る練習をしている。 自分の伝えたいことを話そうとすることはできる。話す内容や順番に気を付け、相手に分かりやすく伝えるために教師の話を参考にしたり、話型を使ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が伝えたいことを絵や文で表現することは苦手であるが、友達や教師の作品を参考にすると自信をもってかくことができる。 千や万の位までの数を読んだり、大きさを比べたりすることができる。 読書量が豊富で言葉に対する関心も高い。知っている語い数も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族と一緒に買い物に行くことは多い。誕生日、子どもの日などにプレゼントを買いに行く経験をしている。自分の好きなものを好きなだけ買おうとしてしまうことがある。「お金は、なくていい。」と言ってしまうことがあり、お金の価値についての理解は、身に付いていない。 去年のバザーでは、たくさん売りたいという気持ちが強く、積極的に大きな声で呼び掛けをしていた。売れたときは、とても嬉しそうにしていた。

あすなる学級	D児 (四年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 「見るカード」「聞くカード」の提示で話し手を見て聞こうとすることはできる。しかし、相手が話している途中で話そうとしたり、姿勢が崩れたりする。 伝えたい気持ちが強すぎて相手のことを考えず、一方的に最後まで話したいことを話したり、何度も同じことを話し続けたりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊学習の思い出をまとめる学習では、四コマ漫画を描き、絵と台詞で表現することができた。 億や兆という大きな数の学習では、数を読んだり、大きさを比べたりすることができた。 ゆっくり、丁寧に文字を書くことができるようになってきた。 学習計画とカレンダーを見ながら、この日にはこんな学習があると把握することができた。時間割の変更などがあると、怒ったり、泣いてしまったりすることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に数回母親と一緒に決まった店に買い物に行っている。店員とのやり取りは、母親が中心である。代金を支払うことで、商品を受け取ることができるといった基本的なことは理解できている。 去年のバザーでは、買ってくれた人に、「ありがとうございます。」とお礼を言うことができていた。たくさん売りたい気持ちはあるが、その気持ちを持続させることが難しくお客さんが来たことに気付かせる言葉掛けをする必要があった。
	E児 (二年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 「見るカード」「聞くカード」の提示で、話し手を見て聞こうとする態度は身に付いてきている。 話を静かに最後まで聞くことを学習中である。 経験したことを伝えたい気持ちがとても強いが、何がおもしろかったのか、何が楽しかったのかという内容を伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○、△、□を描いたり、色を丁寧に塗ったりする練習をしている。 100までの数字を順序よく書くことができるようになってきた。 升の中に文字を書こうとする意識が高まってきた。 清音を読むことができるようになってきた。 今日の日付を読むことができるようになり、「明日」の意味を理解することができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 行き慣れているコンビニエンスストアで、保護者に頼まれた品物を一人で買っている。 支払いの際は、お店の人に「はい。」と言いながら財布に入っているお金を全て出し、代金の分だけ取ってもらっている。
	F児 (二年女子)	<ul style="list-style-type: none"> 話し手が口の近くに「聞くカード」を持ちながら話すことで、最後まで静かに聞こうとする意識が高まってきた。 親しい人に対しては、楽しかった事実を積極的に伝えることができるが、質問されたことに対しては、答えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの色を使いながら色塗りをすることができる。 人物や車など形を捉えて、描いていくことは難しい。 50までの数字を順番に正しく読んで書くことができる。 平仮名の清音は正しく読んで書くことができる。 今日の曜日を言うことができるようになってきた。「昨日」「明日」「明後日」の意味を学習中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と一緒に買い物をし、支払いも保護者がしているため、お店の人とのやり取りはほとんど経験していない。
	G児 (二年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 個別に短い言葉で説明をすることで、内容を理解することができる。 集中を持続して最後まで話を聞くことを学習中である。 順序立てて話をするのは難しいが、自分の気持ちを伝えようとするが増えてきた。 話す相手によって声の大きさが変わることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体をバランスよく描くことができ、片足を上げたり、両手を挙げたりしているなど動きのある人物画を好んで描くようになってきた。 100までの数字を正しく読み、書くことができる。 清音の平仮名と少しずつ促音を書くことができるようになってきた。 今日の日付を理解し、「ふつか」「みっか」などの読み方を学習中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 行き慣れているコンビニエンスストアで、保護者に頼まれた品物を買っている。 1, 2回は買い物に行ったことのあるスーパーマーケットで商品を探すときは、店員に黙って品物の書かれている紙を見せ、持ってきてもらっている。
	H児 (三年女子)	<ul style="list-style-type: none"> 気分によって呼び掛けに応じたり、聞こえないふりをしたりすることがある。 一斉の指示では伝わりづらく、個別に具体的な指示をしている。 話をするのは大好きである。 会話のやり取りが長くなると、何について話をしていたか分からなくなったり、想像した内容が出てきたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 点から点へなぞり書きで、○の形を結び描くことができるようになってきた。 100までの数字を読んで書くことができる。 一つの行事に関して質問をすると、事実やそのときの気持ちを三つ程度言うことができるようになってきた。 自分の出来事を話すときに「昨日」や「明日」「明後日」などいつのことを伝えたいのか伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> コンビニエンスストアにお金を持っておやつを買いに行くことが時々あるが、母親と約束したものと違う品物を買うことがある。支払いは、店員に財布から直接代金分のお金を取ってもらっている。 店員に自分から話し掛けることがある。 去年のバザーでは、販売する意識よりも、いつもと違う場の状況に気持ちが高まり、あまり売る体験をすることができなかった。

はばたき学級	I児 (四年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 興味があることに関しての簡単な指示や説明は聞き取って、その通りに行動したり、分からないときは、質問したりすることができる。 話している内容について、具体的な説明が必要である。 自分の気持ちを伝えることはできるが、語いの少なさから説明が思うようにできず、イライラすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の想像を膨らませながら絵で表すことができる。 書きたい内容を一度言葉に出し、教師に確認をしてから一文ずつ書いていく。 100までの数字を読むことはできる。しかし、順序よく書くときは、何度も最初から読み返し、次に何を書いたらよいか分からなくなることがある。 「来月」「先月」について学習中である。カレンダーを見ながら「今日」「明日」などを正しく言うことはできるが、日常会話では、いつのことなのか説明することが難しいときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 二個程度の品物をコンビニエンスストアで買い物をすることが時々ある。 支払う際に、レジで財布から持っているお金を全て出し、お店の人が必要な分のお金を取るという行動が言葉のやり取りなしで行われている。 昨年バザーでは、大きな声を出しながら、意欲的にカレンダー販売をすることができていた。もらったお金を教師に渡すまでに違う刺激が入ると、渡しそびれてしまうことがあった。
	J児 (六年男子)	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指示の後、個別に詳しく事実や理由を説明されると理解することができるようになってきた。 初めて聞く言葉の意味をよく尋ねてくるようになってきた。 慣れた場であれば、気持ちを伝えることができる。 「あれ」「これ」という言葉が多く、伝えたいことが伝わらないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 腕や脚をバランスよく描くことができるようになってきた。 8桁までの数を読んだり書いたりすることができるようになってきたが、1000までの数を順序立てて書いていくことは難しい。 体験したことに対しての気持ちやその理由を付けながら書くこととするようになってきた。 いつの出来事かを分かるように伝えることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の配慮によって、お弁当、ラーメン、小物など、買う内容によって行くお店を指示し、なるべくお店の人とやり取りせずに買うことができるようにしている。 昨年バザーでは、たくさんのお客さんに積極的にかかわりカレンダーを販売することができた。お金の計算は、焦ってしまい難しかったので、教師から渡されたおつりをそのまま返すようにした。

4 指導に当たって

- 導入の段階（一次）において、昨年度の「フェスタ山下」でたくさんの人にカレンダーを販売している様子や、完成したカレンダーを配布するために各教室を回っている様子の写真やVTRを見ることで、あすなる・はばたき学級だけでなく多くの人々と関わっていくことを想起できるようにする。そして今年もたくさんの人にカレンダーを売りたい、買ってほしいという気持ちを高めることができるようにする。
- 展開の段階（二次）において、カレンダー制作では、一年間の行事の写真やVTRをすることで月ごとにどんな絵や文をかくか、自分で選択して決めることができるようにする。また、単元マップや作業カレンダーを作成することで、見通しをもって教師や友達と協力してたくさん部数のカレンダーを作り上げることができるようにする。
- 展開の段階（三次）において、お店屋さんごっこでは、友達と売ったり買ったりする場面でも多くのコミュニケーションをとることでお互いの良いところに気付くことができるようにする。また、あすはばカレンダーの販売を知らせる活動や、「フェスタ山下」での販売を通して、交流学級の友達、家族、多くの学校職員、地域の人々などたくさんの他者と交流することができるようにする。
- 終末の段階（四次）において、買ってくれた人やお世話になった人に、「〇〇してくれてありがとう。」というお礼の気持ちを表す活動に取り組むことで、この単元を通して関わり合った人々に感謝の気持ちを伝えることができたり、来年度に向けてまた頑張ろうという意欲を高めたりすることができるようにする。

5 指導計画（総時数23時間）

次	時間	単元を貫く学習問題	指導のねらいと主な活動内容
一 次	1		<p>『フェスタ山下』の計画を立てよう」 【指導のねらい】 「フェスタ山下」であすはばカレンダーを販売する活動を目標にして、カレンダー作りやお客さんとのやり取りの練習などの活動の見通しをもち、意欲的に学習に参加することができる。 【活動内容】 1 VTRや写真等で昨年の「フェスタ山下」の様子を思い出す。 2 今年もカレンダーを販売することを知り、必要なことは何かを考えてカードにまとめる。 3 カレンダー作りの計画表を作る。</p>
二 次	13	みんなで、あすはばカレンダー屋さんを開こう	<p>「友達と協力して、カレンダーを作ろう」 【指導のねらい】 友達や教師と協力しながら、絵や文、数字をかいいたりしてカレンダーを作ることができる。 第1時 1年間の行事を写真を見て思い出す。 第2時 自分が作りたいカレンダーの月を決める。 第3～6時 順番や、土日、祝祭日などに気を付けて日付を書く。イラストを参考にしたり、行事の写真を見たりしながらカレンダーの絵を墨を使って描く。描いた絵に文を書く。 第7～9時 枚数を数えながら、印刷したカレンダーに自分の判子を押し。 第10～13時 各月を冊子にまとめカレンダーにする。 【活動内容】 1 行事の写真を見ながら作りたい月を決める。 2 絵や文、日付の数字などをかく。 3 判子を押ししたり、冊子にまとめたりしてカレンダーを完成させる。</p>
	3		<p>「友達と協力してお店の飾りを作ろう」 【指導のねらい】 様々なお店の外装や店内の様子の写真やVTRを見ることで、みんなで作りたい「あすはば屋」のイメージを膨らませ、お店に必要な看板やポスター、ちらしなどを作ることができる。 【活動内容】 1 前時までの活動を振り返り、「フェスタ山下」でカレンダーを販売するお店を開くことを確認する。 2 子どもたちがこれまでに買い物に行ったことがあるお店を思い出したり、教師の準備した写真、VTRを参考にしたりして作りたいお店の看板やちらし、ポスターなどを考える。 3 作った看板を飾ったり、ポスターを貼ったりして「あすはば屋」を作る。</p>
三 次	5 本時 (4/5)		<p>『あすはば屋』の準備をしよう。」 【指導のねらい】 「あすはば屋」の開店を知らせる活動を通して、伝えること（いつ、どこで、いくらなど）の大切さを知ることができる。また、お店屋さんごっこを通して、買い物客とお店の人の簡単な会話やお金のやり取りの練習をすることができる。 1 各教室や地域のお店に完成したカレンダーをプレゼントして、「あすはば屋」を知らせる活動を行う。 2 これまでの買い物の経験や、教師同士の買い物のやり取りを見て、どんな言葉や態度が必要なのか考える。 3 自分の役割について、教師と確認する。 4 実際に友達同士で店員やお客になってお店屋さんごっこをする。 5 「フェスタ山下」で販売することを確認する。</p>
			「フェスタ山下」（11月17日）
四 次	1		<p>「楽しかったことを発表したり、お礼の気持ちを伝えたりしよう。」 【指導のねらい】 「フェスタ山下」での「あすはば屋」の様子を写真やVTRを見て振り返ることで、楽しかったことや自分でできたことを発表したり、感謝の気持ちを伝える手紙を書いたりすることができる。 1 「あすはば屋」の様子を写真やVTRを見て振り返る。 2 感想を考えて発表したり、絵日記にまとめたりする。 3 カレンダーを買ってくれた人たちへのお礼の気持ちを「〇〇してくれてありがとう」という文や絵にまとめる。</p>

家庭や交流学級との連携

目標
<p>【家庭】 ○ 学習したことを家族に伝えることができる。 【交流学級】 ○ 学習したことを担任や友達に伝えることができる。</p>

<p>【家庭】 ○ 連絡帳を通して学校での頑張りを知らせ、家庭で称賛してもらうことで意欲の高まりを持続することができるようにする。 【交流学級】 ○ 交流学級連絡帳を通して、進捗状況や頑張りを伝える。また、交流学級の担任や友達に称賛や励ましの言葉掛けをしてもらうことで意欲的に活動できるようにする。</p>
--

6 本 時 (2 1 / 2 3) (売 り 手 側)

(1) 目 標

- カレンダーを販売するときの方法や手順を理解し、あいさつや返事などを意識したり、たし算やひき算を使ってお金のやり取りをしたりしながら、お店屋さんごっこをすることができる。
- 友達と売ったり買ったりするときのかかわり合いの良さを味わいながら、お店屋さんごっこを楽しむことができる。

個人目標	A児	相手を見て、「いらっしゃいませ。」と声を掛けたり、「ありがとうございます。」とお礼を言ったりすることができる。
	C児	カレンダーの代金を計算して、「いくらになります。」と客に伝え、代金をもらうことができる。
	D児	相手を見て、店員としての言葉掛け「いらっしゃいませ。」「ありがとうございます。」という言葉を使うことができる。
	I児	筆算をしたカレンダーの代金を買い物客を見ながら伝えることができる。また、一人の買い物客に品物を渡すところまでやり取りをすることができる。
	J児	計算機を使って正しい金額のおつりを「ありがとうございます。」という言葉とともに渡すことができる。

(2) 「思考活動」を充実させる他者との交流

- お店屋さんごっこで友達や教師とかかわり合いをもちながら、売ったり買ったりするときに必要なことを話し合い、身に付けることができる。

(3) 展 開

◎は「思考活動」 ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動	子どもに応じた具体的な指導				
		A児	C児	D児	I児	J児
つかむ・見通す(10)	1 はじまりのあいさつをする。 2 前時の学習を振り返る。 ◎想起 3 本時のめあてを確認する。 「あすはばカレンダー」をたくさんうるにはどうしたらいいかかんがえよう。 (1) 声に出して読む。 (2) 自分のめあてをワークシートに書き写す。	○ 単元マップを見ることで、本時の学習内容を理解することができる。 ○ 全体のめあてと学習の流れを確認することで、見通しをもって取り組むことができるようにする。 ○ 売り物名人になると「あすはば屋スタッフバッジ」、買い物名人になると「名人ステッカー」がもらえることを伝え、本時の活動への意欲を高めることができるようにする。 ○ 自分のめあてを決め、声に出して読んだり、ワークシートに書いたりすることでめあてを意識することができるようにする。 ○ ワークシートは、子どもの書く速さなどの実態を考慮して、個に応じた内容のシートを準備することで、書くことが苦手な子どもも意欲的に取り組むことができるようにする。				
活動する(25)	4 「お店屋さん名人」になる方法を確認し合う。 ・ お客さんにするあいさつ ・ 自分たちの作ったカレンダーの紹介の仕方 ・ 品物の渡し方 ・ 計算の仕方 など 5 カレンダーを売る練習をする。 ・ 話し合ったことを大切にしながら、カレンダーを売る練習をする。 6 練習を振り返りスタッフバッジをもらう。 ・ VTRを見ながら、自分のめあてが達成できているところを確認し、スタッフバッジをもらう。 7 全員でお店屋さんごっこをする。 ・ お客さんにするあいさつ ・ 自分たちの作ったカレンダーの紹介の仕方 ・ 値段の伝え方 ・ 計算の仕方 など	☆ 子どもたちが自分たちの買い物の様子を思い出すことができるように、写真やVTRを準備しておく。 ○ 子どもたちと話し合いながら、売るときに必要な言葉や態度などを確認する。 ○ 子どもが考えた売るときに必要な話型は、黒板、話型カードの両方で確認できるようにしておくことで、活動への見通しをもたせ、自信をもって活動することができるようにする。 ○ 売る役にはスタッフキャップ、買う役には買い物バッグと財布を用意してそれぞれの役割を理解することができるようにする。 ○ 話型カードを見ながら、あいさつ、「カレンダーはいかがですか。」という言葉掛けができるようになったら、相手を見ながら売ることができるようになるように言葉掛けする。	○ 話し合ったことを黒板に掲示することで、それを見ながら自信をもって言葉を掛けたり、お金を受け取ったりすることができるようにする。暗算で計算しようとして難しい場合は、計算機や計算用紙を準備しておく。	○ 相手を見ていなかったり、一方的に話をしたりしているときには「相手を見る」、「最後まで話を聞く」などの大切なことを意識できるようにカードを提示する。	○ 位の分かる筆算しやすい用紙を準備し、落ち着いて計算をするように言葉掛けをする。預かったお金を、確実におつりの係に渡すことができるように立つ場所が近くなるような場の設定をする。	○ おつりの計算をするために計算機を準備する。 ○ 代金を確実に預かることができるように代金をもらう子どもと隣同士になるような場の設定をする。
振り返る(10)	8 本時の学習を振り返る。 ・ 活動の様子を振り返り、お店屋さんごっこが上手にできたことを確認する。 9 次時について知る。	○ 単元マップを見ながら本時の学習を振り返るとともに、個人目標が達成できたときに、その点を具体的に褒めるようにし、達成感を味わうことができるようにする。 ○ 次時は、売る側と買う側を交替してお店屋さんごっこすることを知らせることで、学習への意欲を高めることができるようにする。				

6 本 時 (2 1 / 2 3) (買 い 手 側)

(1) 目 標

- カレンダーを買うときの方法や手順を理解し、「こんにちは」、「ありがとう」の言葉を言ったり、お金を確実に支払うことができる。
- 友達とのかかわり合いの良さを味わいながら、お店屋さんごっこを楽しむことができる。

個人 目 標	B児	教師や友達と一緒にお店屋さんごっこをし、友達を参考にしながら、「ありがとう。」と言ったり品物を受け取ったりすることができる。
	E児	お店の人に品物を渡し、代金を確実に手渡すとともに、お店の人に聞こえる声の大きさを「ありがとうございました。」とお礼を言うことができる。
	F児	自分の買いたい品物だけに触れてお店の人に渡すことができる。財布や品物をバッグに入れて持ち帰ることができる。
	G児	品物の代金を自分で出して買い、お店の人を見て「ありがとうございました。」とお礼を言うことができる。
	H児	お店の人を見ながら「これをください。」「ありがとうございました。」と聞こえる声の大きさをやり取りをすることができる。品物の代金200円を支払うことができる。

(2) 「思考活動」を充実させる他者との交流

- お店屋さんごっこで友達や教師とかかわり合いをもちながら、売ったり買ったりするときに必要なことを話し合い、身に付けることができる。

(3) 展 開

◎は「思考活動」 ☆はICT活用の留意点

過程 (分)	主な学習活動	子どもに応じた具体的な指導									
		B児	E児	F児	G児	H児					
つか む ・ 見 通 す (10)	1 はじまりのあいさつをする。 2 前時の学習を振り返る。 ◎想起 3 本時のめあてを確認する。 「かいものめいじん」になるには、どんなことがたいせつかかんがえよう。 (1) 声に出して読む。 (2) 自分のめあてをワークシートに書き写す。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元マップを見ることで、本時の学習内容を理解することができる。 ○ 全体のめあてと学習の流れを確認することで、見通しをもって取り組むことができるようにする。 ○ 売り物名人になると「あすはば屋スタッフバッジ」、買い物名人になると「名人ステッカー」が手に入ることを伝え、本時の活動への意欲を高めることができるようにする。 ○ 自分のめあてを決め、声に出して読んだり、ワークシートに書いたりすることでめあてを意識することができるようにする。 ○ ワークシートは、子どもの書く速さなどの実態を考慮して、個に応じた内容のシートを準備することで、書くことが苦手な子どもも意欲的に取り組むことができるようにする。 									
活 動 す る (25)	4 「買い物名人」になる方法を確認し合う。 ・ 買うときに必要な言葉 ・ お店でのマナー など 5 カレンダー買う練習をする。 ・ 話し合ったことを大切にしながら、カレンダーを買う練習をする。 6 練習を振り返り、買い物名人ステッカーをもらう。 ・ VTRを見ながら、自分のめあてが達成できているところを確認し、名人ステッカーをもらう。 7 全員でお店屋さんごっこをする。 ・ 買うときに必要な言葉 ・ お店でのマナー ・ お金の払い方 ・ 商品のもらい方など	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 子どもたちが自分たちの買い物の様子を思い出すことができるように、写真やVTRを準備しておく。 ○ 子どもたちと話し合いながら、買うときに必要な言葉や態度などを確認する。 ○ 子どもが考えた売るときに必要な話型は、黒板、話型カードの両方で確認できるようにしておくことで、活動への見通しをもたせ、自信をもって活動することができるようにする。 ○ 売る役にはスタッフキャップ、買う役には買い物バッグと財布を用意してそれぞれの役割を理解することができるようにする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">○ 教師や友達と一緒に買い物に行くことで、友達を参考にしながら、「こんにちは」とあいさつをしたり、「これください」と店員役の友達に言ったりすることができるようにする。</td> <td style="width: 20%;">○ 声の大きさの表を提示し、相手に聞こえる声の大きさがどこであるか確認しながら練習をすることができるようにする。</td> <td style="width: 20%;">○ 買い物カードを見ながら買うときに大切なことを確認することで、品物はすぐに触らず目で見ることが大切だと分かるようにする。</td> <td style="width: 20%;">○ みんなで話し合った買い物名人になる方法を見ることで、必要なお金だけを出したり、相手を見てお礼を言ったりすることができるようにする。</td> <td style="width: 20%;">○ 声の大きさの表を見ながら相手に伝わる声の大きさを確認することができるようにする。 ○ 相手の目を見ながら言葉を言うことができるように言葉掛けをする。</td> </tr> </table>					○ 教師や友達と一緒に買い物に行くことで、友達を参考にしながら、「こんにちは」とあいさつをしたり、「これください」と店員役の友達に言ったりすることができるようにする。	○ 声の大きさの表を提示し、相手に聞こえる声の大きさがどこであるか確認しながら練習をすることができるようにする。	○ 買い物カードを見ながら買うときに大切なことを確認することで、品物はすぐに触らず目で見ることが大切だと分かるようにする。	○ みんなで話し合った買い物名人になる方法を見ることで、必要なお金だけを出したり、相手を見てお礼を言ったりすることができるようにする。	○ 声の大きさの表を見ながら相手に伝わる声の大きさを確認することができるようにする。 ○ 相手の目を見ながら言葉を言うことができるように言葉掛けをする。
○ 教師や友達と一緒に買い物に行くことで、友達を参考にしながら、「こんにちは」とあいさつをしたり、「これください」と店員役の友達に言ったりすることができるようにする。	○ 声の大きさの表を提示し、相手に聞こえる声の大きさがどこであるか確認しながら練習をすることができるようにする。	○ 買い物カードを見ながら買うときに大切なことを確認することで、品物はすぐに触らず目で見ることが大切だと分かるようにする。	○ みんなで話し合った買い物名人になる方法を見ることで、必要なお金だけを出したり、相手を見てお礼を言ったりすることができるようにする。	○ 声の大きさの表を見ながら相手に伝わる声の大きさを確認することができるようにする。 ○ 相手の目を見ながら言葉を言うことができるように言葉掛けをする。							
振 り 返 る (10)	8 本時の学習を振り返る。 ・ 活動の様子を振り返り、お店屋さんごっこが上手にできたことを確認する。 9 次時について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「あすはば屋」を使ってお店屋さんごっこを行い、練習したことが生かされているかを確認し、できていたら大いに称賛する。 ○ 単元マップを見ながら本時の学習を振り返るとともに、個人目標が達成できたときに、その点を具体的に褒めるようにし、達成感を味わうことができるようにする。 ○ 次時は、売る側と買う側を交替してお店屋さんごっこすることを知らせることで、学習への意欲を高めることができるようにする。 									